

木固めエース・仕上げクリヤー取扱説明書

1. はじめに

木固めエースはポリウレタン系のプレポリマーが主成分の無色透明でサラサラした液体で、常温・常圧でも木材に浸透しやすく、木材組織内の水分、セルロースと反応して硬化します。水分や細菌、害虫の侵入を防止し、木の変色や老朽化の進行を遅くします。黄変が少なく、耐水性・耐摩擦性にすぐれた特徴を持つ木固め剤です。

仕上げクリヤーは木製品、特に器やカトラリーに適しています。汁椀やカトラリー、箸など耐水性が必要なものは木固め加工の後、仕上げクリヤーを塗布してください。木固め効果を高め、表面を更に丈夫で平滑にします。杉、松、モミ等のやわらかい木材に最適です。

2. 塗装に必要な道具



(1)耐溶剤手袋

別売りの「タフグローブ」やホームセンター等で販売されている耐溶剤タイプの手袋を推奨します。

(2)塗料を入れる容器

木固めエース、仕上げクリヤーを小分けするのに使用します。

(240g入りの容器はキャップを代用することができます。)

(3)ウエス

木固めエースや仕上げクリヤーを塗布したり、拭き取り作業等に使用します。

(4)サンドペーパー(耐水ペーパー)

素地研磨や空研ぎ、水研ぎに使用します。

素地研磨 50～100番、仕上げ研磨 150～180番、空研ぎ、水研ぎ用 1000番

(5)刷毛または布タンポ

木固めエースや仕上げクリヤーを塗布するときに使用します。

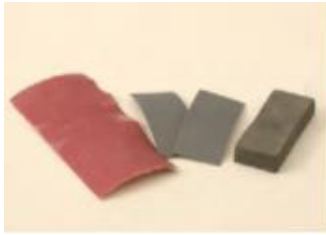
(6)小割材

塗装した製品を乾燥させる台として使用します。割り箸等で代用できます。

(7)防毒マスク

換気が出来ない場所で作業する場合やシンナー臭が苦手な方は防毒マスク(有機ガス吸着フィルター付き)をお勧めします。

3. 素地研磨



この工程の主な目的は、カンナ目やさか目などの凹凸を取り去って、平らな面を作り出すことと、材料表面を一皮むいて、汚れの無いきれいな状態にすることです。これを素地研磨といいます。素地が滑らかで清浄になっていれば塗装がスムーズに進み、きれいな塗膜を形成することが出来ます。



素地研磨は「下研磨」と「仕上げ研磨」の2段階に分けておこなうのが効果的です。下研磨には50～100番、仕上げ研磨には150～180番のサンドペーパーを使用します。手作業で素地研磨をおこなう場合は硬質ゴムや木製のブロックにサンドペーパーを張り付けて使用すると良いでしょう。研磨の方向は必ず木目と平行におこなってください。研磨後はエアガンやブラシを使って研磨粉を除去してください。

4. 木固めエースの塗布



(1)木固めエースを必要な量だけ容器に移し、刷毛またはウエスで塗布します。塗り重ねる回数は木の種類や部位によって異なります。スギやヒノキ、ナラなどの導管の太い環孔材は1～3回、サクラやチェリー、メイプルなどの導管の細い散孔材は1～2回が目安です。ドブ漬けの場合、含浸作業は1回で十分です。木材の表面から微細な気泡が出なくなったら、含浸が完了した合図です。木固めエースの粘度が高くなって、塗布しづらい場合は専用シンナーで10%程度希釈してください。



(2)木固めエースが木材にしみこまなくなったら、専用シンナーを軽く含ませたウエスを使用し、表面に残っている余分な木固め剤を拭き取ります。

(3)木固めエースを塗布してから2～3時間の間は、木材の表面から余分な溶液や気泡が浮き出てきます。そのため定期的に(30分間隔が目安)、専用シンナーを軽く含ませたウエスを使って拭き取ってください。



(4)直射日光が当たらない場所で、15～20時間ほど乾燥させます。

(5)表面が乾いたら、1000番のサンドペーパーで空研ぎして、表面の微細な気泡やゴミを取り除きます。

※: 木固め作業に適した室温は20～25℃です。室温が10度以下になると硬化速度が遅くなります。逆に室温が30℃を超えると反応が急速に進み、気泡が発生することがあります。

5. 仕上げ工程

- ・汁椀やカトラリーなど耐水性が求められる器物は、木固め加工後に別売りの仕上げクリヤーを塗布すると光沢が出て、耐水性や耐久性がさらに向上します。



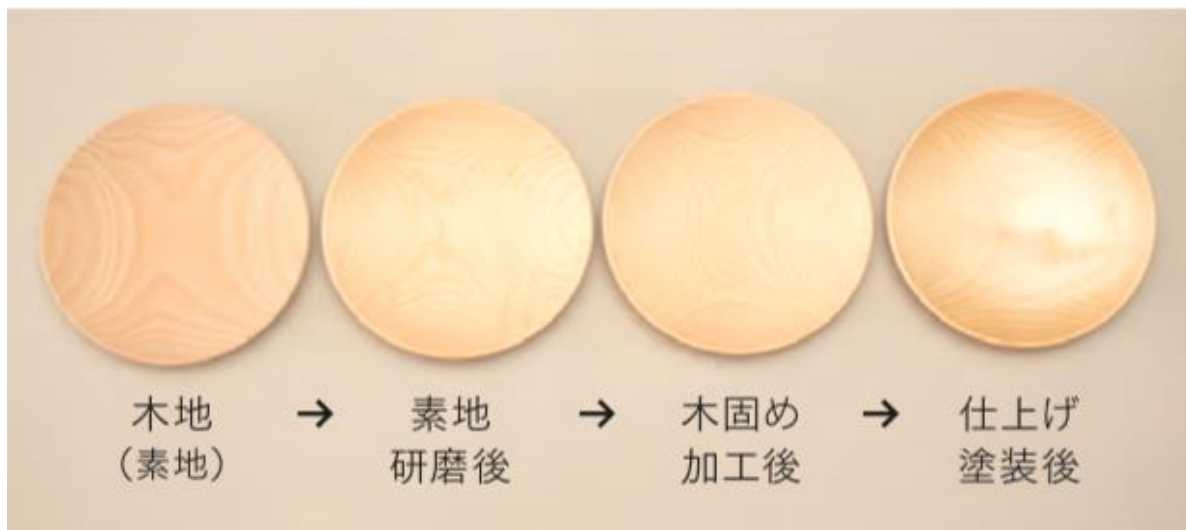
- (1) 仕上げクリヤーを必要な分だけ容器に移し、口周りの液を拭き、すぐに缶のキャップを閉めてください。
- (2) 刷毛または布タンポで均一に塗り伸ばします。厚塗りするとムラになり易いので、注意が必要です。



※: 刷毛塗りで広い面積を塗る場合はムラが出やすいので、専用シンナーで希釈して2度塗りするなどの工夫をしてください。

- (3) 常温で15時間ほど放置した後、耐水ペーパー(1000番)で軽く水研ぎすると、表面が滑らかになり、光沢が良くなります。

各工程の仕上がりイメージ



塗装と研磨を繰り返すことで表面が滑らかになり、耐久性が上がります。
木固め剤を塗布すると表面が若干濡れたような色になります。
更に仕上げクリヤーでコーティングすると、艶有り仕上げになります。

6. 取扱上の注意

- (1)塗装中は換気を十分に行ってください。乾燥・硬化時に有機溶剤(VOC)が発生します。
換気扇の無い部屋で塗装する場合は窓を少し開け、扇風機を外に向けて回し、その手前で作業を行うようにしてください。
- (2)本剤は可燃性です。幼児の手が届かない冷暗所で保管し、火気から遠ざけるようにしてください。
- (3)溶液が肌に触れたときは直ぐにウエス等で拭き取り、石鹼で洗ってください。
万一、目に入った場合はしばらくの間、流水で洗眼し、すぐに眼科医の診断を受けてください。
- (4)気固めエース及び仕上げクリヤーは湿気に敏感な塗料です。フタをしっかりと閉めても容器内に残った湿気と反応し、徐々に硬化します。フタをしなくて長時間放置したり、湿度の高い場所で保管すると、製品の使用出来る時間が短くなります。開封後は出来るだけ早く使い切るようにしてください。
- (5)小分けした木固め剤が余ってしまった場合は、食品用のポリエチレンラップ等で密封し、出来るだけ早く使い切ってください。また1度取り出した液剤を缶に戻さないようにしてください。本剤を処分する場合は古新聞やウエス等に染み込ませ、乾燥させてから可燃ゴミとして処分してください。
- (6)希釈するときは必ず専用シンナーをご使用ください。市販のシンナーで希釈すると、凝固したり、白濁したり、また塗料が乾燥・硬化しなくなる場合があります。

特殊塗料専門メーカー

ISO-9001 認証

 **寿化工株式会社**

www.kotobukikakou.co.jp

〒346-0111 埼玉県久喜市菖蒲町上大崎 724-1

TEL:0480-85-1045 FAX:0480-85-2204

